

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学 広報誌

2006年 12月発行 No.55

着るもの



学園祭女装コンテスト (撮影：山口義雄)

特集 Let's 就活！あなたの夢を応援します

- 第3回公開講座
- 第4回オープンキャンパス開催
- 第32回学園祭
- 授業・実習風景③
- 臨床検査科学外研修
- 教員の活動紹介⑥
- 先輩から後輩へ⑥
- 短大ニュース
- 事務部から
- インフォメーション

○ 特集 Let's 就活！

あなたの夢を応援します

学生の皆さんにとっても、保護者の方にとっても、就職は最大の関心事でしょう。一般大学よりも就職戦線の遅い医療福祉系では、今なお本格的な就職活動が行われています。

本学では、よりよい就職に向けて各学科・就職委員会等がさまざまな支援活動に取り組んでいます。三年生、二年生の皆さんにも今から将来の就職に意識を向けていただけるよう、就職活動の一部をご紹介しますとともに、就職先が望む人材について特集しました。

就職専門委員会

委員長 山根正信

大学は学生にとって、学問を修め青春を楽しむ場所ではなく、自分の適性に合った職場に就職するための通り道であり、入学後二年あるいは三年たてば、学生の皆さんは社会人として巣立ってきます。就職専門委員会は各学科の就職担当教員や事務部庶務課と連携をとりながら、各学生が希望の職場に就職できるように援助しています。

今年度、本委員会では求人票をインターネット上でやり取りできるシステムを導入しました。一般大学ではすでに当たり前になっていることですが、医療福祉系ではそのスタートは遅く、今までは本学所定の求人票または、求人先の求人票

に必要事項を記入して郵送してもらっていました。今年度からはインターネットを利用すれば、本学のホームページ上から求人票をプリントアウトして記入後郵送するか、ホームページにある求人フォームに必要事項を記入して、そのまま送信してもらって求人申込みが完了できます。

今回の導入によって、予想を上回る多くの求人票がインターネット経由で送られてきています。就職を希望している学生の皆さんも、短大に送られてくる求人票だけでなく、インターネットを活用して、就職先を検索してみてください。その中に自分に合った職場が見つかるかもしれません。ただし、各自で就職先を探して受験する場合は、必ず就職担当の教員にその旨伝えてください。

<http://www.kawasak-i.ac.jp/jc/home/>

第一看護科

三年生担任 登喜玲子

毎年七百以上の施設から千人を超える求人に恵まれておられるおかげで、看護科学生就職希望者の就職率は100%です。本学教員としては、できるだけ多くの卒業生が附属病院に残って活躍してくれることを願っているのですが、最近の動向として地元志向が強いように感じています。これも少子化の影響でしょうか。

実際の就職活動は三年次の夏休み中の施設見学から始まり、試験は九月～十一月がピークです。あまり焦ることはありませんが八月くらいまでには進路について保護者の方とも相談しておいた方がいいでしょう。学生にとって一番悩むのが施設選びのようです。これに関しては、実際に行ってみる・聞く・感じてくるのが大切だと指導しています。二年余りの期間、本学で培ってきた看護観を、ここでおいに発揮してください。

また、毎年約二割の学生が進学を希望しています。最近では保健師・助産師の養成校（近年募集停止校増加）より四年制大学の三年次編入学希望が増えています。編入学試験のピークは八月～九月と就職試験より早いので、一～二年次から本学の編入学支援等を利用した早期の取り組みが必要でしょう。

進学サポートについては編入学等支援小委員会が主体となって、大学全体として取り組んでいます。毎年、三～四回のガイダンスが開催され、最終学年の春からは、編入学試験に向けて小論文、英語など受験科目の学習支援が行われています。各学科でも、受験手続、進学先相談などのサポートを行っています。

臨床検査科

就職担当・三年生担任 所司睦文

臨床検査科では二年生後期の三月上旬～中旬に就職説明会を開催し、就職活動全般にわたる詳細な説明および、学生指導を実施しています。その折、参加学生に仮りの履歴書を書いてもらい、それを学生担任が中心となってチェックし、四月中に返却しています。

また、各病院施設、企業、他から送られてきた求人票は、そのまま電子印刷（pdfファイル）し、短期大学の電子掲示板の求人情報に掲示します。それを学生が逐次閲覧し、自身が受験しようと思う施設を見つけ、学科就職委員（教員）に受験する旨を申告した後に、卒業見込証明書、成績証明書、履歴書、健康診断書、他などを担任にアドバイスを受けながら準備します。発送書類は、求人票で指示された締切日のおよそ一週間前に学生本人と学科就職委員が最終確認した上で、各施設に発送しています。就職試験を受験した学生は、直ちに試験や面接内容を詳細にまとめた就職試験報告書を作成します。そして、採用の可否通知を受けたのち、内定先あるいは不合格報告書を学科就職委員に提出します。進学を希望する学生に関しては、学習面だけでなく心理的サポートも重視しながら、手続きに不備が生じないような受験サポートを実施しています。

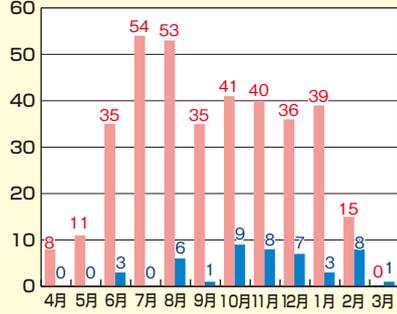
放射線技術科

就職担当 荒尾信一

放射線技術科では三年生の前期に二回の

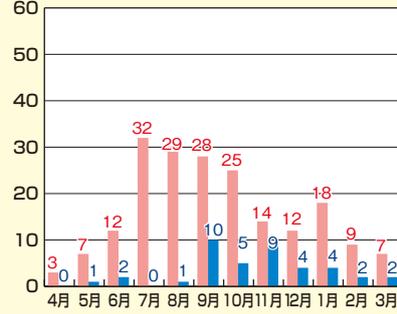
臨床工学科

求人件数・内定者数(人)



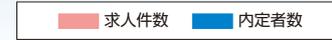
臨床検査科

求人件数・内定者数(人)



平成17年度

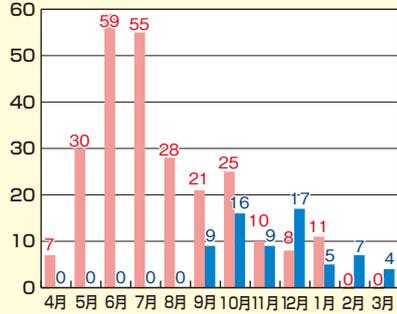
月別求人件数と内定者数



本学では就職に際しライセンスが求められる学科が多いことから、就職活動は国家試験の合格発表後まで続けられます。毎年卒業後の5月までには、どの学科においても100%の就職を達成しています。

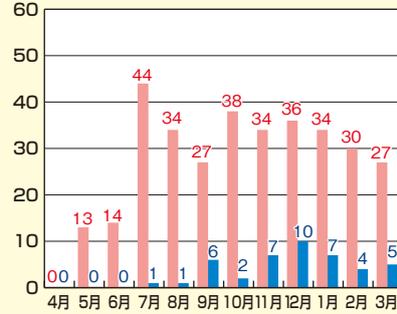
介護福祉科

求人件数・内定者数(人)



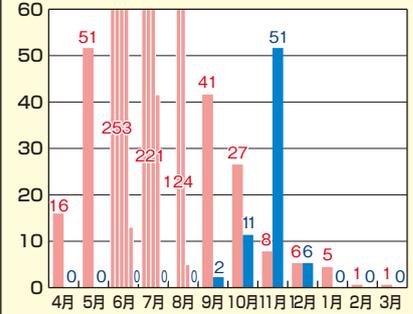
放射線技術科

求人件数・内定者数(人)



第一看護科

求人件数・内定者数(人)



臨床工学科

副主任・就職担当 軸屋和明

臨床工学科では、医学と工学の専門的知識を兼ね備えた臨床工学技士を養成し、こ

就職オリエンテーションを実施しています。初回では、全国の病院数、放射線技師数の推移や本学科の過去の求人就職状況について紹介しています。併せて就職に対するモチベーションを高く持つてもらうために、社会人（医療人）としての心構えや医療現場で必要とされる人材について再確認を行っています。第二回では、実際の出願の方法や就職試験の受け方等の実践的な内容について説明を行っています。

就職活動では他の四年制大学や大学院の卒業生と同じ職をめぐって厳しい競争をすることにになります。そのために大切なのは、いかに自分を高めておくか、そしてそれをいかにアピールできるかということです。診療放射線技師のような免許職では実力を伴わない就職活動（留年したり、国家試験に不合格になること）は活動自体が意味を持ちません。在学生の皆さんは日々、実力を付けるよう、また、医療人としての考え方や一般社会常識を身に付けるよう努力していくことが大切です。そのためには自分はどうのような診療放射線技師になりたいのか、どのようなところへ就職すべきかを早い段階で意識しておくといでしょう。

求人件数は七月から三月までコンスタントにある状況ですが、応募期間は短く、ほとんどの施設で締め切りは一ヶ月後程度です。より希望にそった施設を受験するためにも前もっての準備が必要なのです。

れまでに約八百名を全国の病院や医用工学関連企業に輩出しています。就職指導の開始は二年次の秋（十月末）に開催する学生と保護者を対象とした就職進路説明会であり、就職状況、就職活動の手続き、就職活動時の諸注意などの説明が行われます。また、これに併せて、就職活動の専願制についてのお願いや、特に地元での就職希望者については保護者の皆様の支援をお願いするようにしています。

平成十七年度については、医用工学関連企業からは三月から九月まで、病院からは八月から翌年の三月にわたって求人があります。合計で約三百七十件、人数は約七百五十人であり、病院からの求人数が大部分であります。学生からの希望は圧倒的に病院が多いのでバランスがとれた求人施設数となっています。

内定者については、医用工学関連企業を希望するものは三年次の六月にすべて決まっていますが、病院希望のものは八月から翌年三月まで幅広く分布しています。国家試験の受験準備のことを考えることができるだけで十二月までには決定するよう積極的に活動するように指導をしています。



臨床工学科就職活動説明会

介護福祉科

就職担当 三宅 妙子

夏休みが終わり、後期(九月中旬)に入ると就職活動も活発になってきます。十一月三十日現在で、内定を頂いた学生は三十九人になりますが、採用と不採用の違いは、どこに原因があると思いますか?

どの施設に就職を希望するかは、本人の目や耳などの五感と足による情報収集から始まります。そして、それを履歴書、志望理由書、自己アピール文などにどのように表現したか、文字の丁寧さ、文章構成・文章表現力のスキルアップにどれだけ努力し

たかが結果に現れているように思えます。なぜなら、この努力が面接試験に現れるからです。ここでは筆記試験への準備は当然のことなので省きますが、面接では身だしなみを整えて礼儀正しく好感を持つていた

ただけるような対応が必須です。そのためには日頃から自分の弱点を



就職指導

知ることから始め、様々な話題を文章にまとめ、さらに口語体で伝える努力を惜しまないことをお勧めします。

医療保育科

就職担当 木戸 啓子

本学科は、日本初の医療の専門性をもつ保育者の養成を目指しています。そのため卒業時には、三年間で習得した専門的知識・技能を生かし、さまざまな分野での活躍が期待されます。学生の希望する主な就職先は、保育所、幼稚園、小児病棟、障害児施設など多岐にわたっています。

現在は一年生、二年生が在籍しており、就職該当学年である三年生はおりません。そのため、具体的な就職活動は来年度からということになりますので、今回は、就職活動へ向けての学生の様子をお伝えします。

二年生は、実習で得られた経験をもとに、就職先を具体的に絞りつつあります。一年生は、夏休みに保育所、幼稚園などで自主的に実習を行い、経験を積んでいます。現在は、学生それぞれが実習を通して自分の適性を模索しているところだといえます。

一、二年生の間に芽生えた職業に対する学生の前向きな姿勢が、卒業時には大きく生かされるよう願っています。

このように本学では主に各学科単位で就職支援を行っていますが、送り出した先の医療・福祉施設では卒業生はどう評価されているのでしょうか。

本学が平成十七年に実施した「卒業生の就職先へのアンケート調査」では、回答いただいた百五十施設から「意欲的で責任感が強く、専門的な知識や技術力が身につけている」という高い評価をいただいています。また本学出身者は「まじめで努力型」という印象も強いようです。しかしその一方で、国際的視野、外国語能力という点では評価が低く、教養面での更なる成長を期待する声も聞かれました。対策として、現在「医療福祉教養講座」の開催をはじめ、英語のクラスサイズを小さくするなどカリキュラム改善を行っています。学生の皆さんも社会情勢について理解を深めるため新聞を読むなどして、大学での勉強以外にも視野を広げる努力をして欲しいと思います。

次に、就職先はどのような人材を求めているのか、各学科の卒業生がお世話になっている医療・福祉施設および企業の方々にお話をうかがいました。

第一看護科

人間としての感性を磨こう

川崎医科大学附属病院6階ICU・CCU主任・重症集中ケア認定看護師 中山 智代美

私は短大を卒業後、川崎医科大学附属病院に就職し様々な場面での看護を経験しました。「患者



さまに、今必要なケアは何なのか」を考えながら日々看護を行なっているうちに、看護の楽しさ、面白さがわかるようになってきました。

当院には、WOC看護(創傷、失禁、オストミー)、糖尿病看護、重症集中ケアの認定看護師がいます。認定看護師とは、特定分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践を行なう看

護師のことで、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的としています。私はそのうちの一人で重症集中ケア認定看護師です。現在は、ICU・CCUで主任として最善のケアを目指しています。また、看護チームの仲間であるスタッフの育成も行っています。

皆さんは「看護」って何だと思いますか?医療はサービス業です。看護もサービスです。看護サービスとは、患者さまのニーズに応じて、健康回復、苦痛緩和という目的のために活動することです。サービスは看護師個人の能力、力量、人間性に負う部分が大きく、人の命を大切に、病んだ人を援助したいという、看護職につく人の価値観によって異なってきます。学校で学

ぶ基礎知識と臨床の場で得た知識とを統合させながら、一人の人間としての感性も磨いて欲しいと思います。そして、私たちと一緒に看護の楽しさを見つけてながら働きましよう。

臨床検査科

就職先から学生に求めること

医療法人天和会松田病院 検査室技師長 岡本 由美



病院というところは、特殊なサービス業の環境にあります。患者様はお金を払ってまで、「ありがたい」と言っていました。他のサービス業では考えられないことです。患者様はどのような気持ちで来られて、帰られるのか、まずはそれを知っていただきたいと思います。

学生さんに求めること一第一に、社会人・医療人の前に、まず人としての常識を身につけた人になって欲しいということです。では、「常識とは何」と言われると返答に困りますが、「人と関わる上で、自分本位に物事を考えずに、且つ他人に不快な思いをさせないこと」と、私は思っています。特に病院は、一人で仕事をしているわけではあり

ません。年齢の違う様々な職種の人々と関わっていく上で、人としての常識を備えてもらいたいと思います。

二番目に、臨床検査技師の資格を取ったところをスタート地点と考えて、新たななる出発をしてください。三年間の知識と技術は、とりあえずしまっておきましょう。新しい環境の中で、三年間で学んだことと、新しく吸収する知識・技術とを統合しながらさらに飛躍してください。そして、「何故?」と思う気持ちを持ち続けてもらいたいと思います。色々な場面において「何故?」と、考えてみましょう。必ず、物事には根拠があります。どのような場面においても、ただ言われたことを覚えるだけではなく、頭で考えられる人になってもらいたいと思います。そして、私たちの仕事の先には、患者様がいらっしゃることを絶対に忘れないようにしていただきたいと切に願っております。

常に前進を...それは患者様のためであり、自分の人生のためでもあるのですから。名前のとおり立派な臨床のための検査技師になっていただきたいと願います。

放射線技術科 病院が求める人材

倉敷中央病院放射線センター 副技師長 田淵隆

私は、この二十年の間に二つの施設を経験しました。どちらも六十名以上の技師が勤務する病院であり、私の経験は特殊だと言われるかもしれませんが、「病院が求める人材」について考えてみたいと思います。

いま、医療経済は厳しい状況にあり、

診療報酬のマイナスイラス改定、国公立病院の統廃合等が続いています。また、世論は医療の効率化を求め、同時に医療の質についても厳しく問われています。これらを実現していくためには、優秀なスタッフの確保が必要です。しかし、実績のある人の採用で即効性を求めるより、優秀な指導者のもと、人を育てることが理想です。求められている人材は、今後に大きな可能性を感じさせる人だと考えます。

学生時代の成績には、国家試験をパスできる力以上を求めません。就職すればそこがスタートラインとなります。質の高い、安全な医療をチームとして遂行して行くために必要な協調性と、何事に対しても「なぜ?」と疑問を抱き解決していく前向きな姿勢が重要です。進歩の著しい医療の流れに遅れることのない向上心と高い専門性は、大病院だけが望んでいる訳ではなく、それぞれの特色を打出す必要のあるすべての病院が求めています。「とりあえず、安定した職場に就けば後は...」なんて考えは捨てるべき時代となりました。更なる達成感を求め、向上心を維持し、優しさに磨きをかけてあげることがこの業界における責務です。是非、最高の医療人を目指してください。

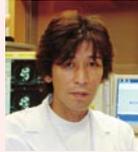
臨床工学科 渡る世間は自分次第

フクダ電子株式会社クリティカルケア

企画部情報教育課

田野雪絵

社会の荒波に漕ぎ出して早や十数年。



現在は、人工呼吸器を安全に使用していただくための勉強会を主な業務にしています。社内の新人研修や、病院の新入職員、専門学校で学生向けと様々ですが、こうした経験から就職を迎える皆さんに求めることを述べてみたいと思います。

まず、自分の将来のあるべき姿(どうなりたいか、何をしたいか)を思い描くことです。これができないと、自分に適した就職先・仕事に恵まれないでしょう。数年間を無意味に過ごしてしまうことになり、本人のみならず、雇用先にとっても損失となります。

そして、柔軟な人(考え)であること。これから進む社会では、立場や年齢、バックグラウンドの異なる人達との関わりを避けられません。こうした人達との柔軟な関係(協調性)を築く能力を求めます。

また、臨床工学技士が求められる分野は広く、進んでいく道はいくつにも分岐しています。新しいことにチャレンジする、取りいれることのできる柔軟な考えは、よりよい環境を導く助けとなります。

最後に、貪欲であること。与えられるのを待つよりも、自分で突進していきける人を求めます。貪欲に知識・経験を習得できる人は、成長のスピードが速く、より早く戦力となり、利益を生み出す源(社会への貢献)になれるからです。

思いつくところを述べましたが、これから就職を迎える皆さんのお役に立てれば何よりです。



介護福祉科 施設側が求める人材とは

介護老人保健施設 福寿荘介護課長 小野玉枝

当施設は平成二年に開設、平成九年より実習生の受け入れを開始し、微力ではありますがこの分野における人材育成のお手伝いをさせていただいている介護老人保健施設です。

私どもの施設は、当初新卒者を受け入れる側として、先ず性格的に「優しい」「まじめ」ということに重きを置いて採用してまいりましたが、社会状況、学生の気質、福祉現場が時代と共に変化してきている中で要求するものも多様化してきました。

養成施設において福祉専門技術者としての知識を数多く学び、実習生のレベルも年々向上してきています。しかし、その知識や能力を實際福祉の現場で効率よく発揮できない人や、発揮するチャンスを逃している人、また自分の能力をアピールできず信頼を築けない人がいるのも事実です。組織の中で信頼を得るためには、第一に社会人としての規律・マナーを守り、与えられた役割を果たせる人材でなくてはなりません。その上に在学中から将来を見据えて、常に向上心を持ち、豊かな人間性を養い、確かな技術教養を身につけ、決められたルールの中で一歩先を見据えた行動ができることが大切であり、将来的には組織の中核をなす責任ある立場を目指するという意欲を持った人材を我々は必要としています。

また、施設としてもより良いサービスを提供するために、信頼関係の構築はもとより、健康な心身を保つための自己管理能力と、いかなる場合においても適格な状況判断ができる職員の人材育成に努めてまいります。



平成十八年度 第二回公開講座

テーマ
肺に忍びこむ悪もの
—アスベストとタバコ—

放射線技術科教授 今城吉成・梶原康正・西村明久

学園祭初日の十月十四日(土)に今年度第三回の公開講座が本学体育館講堂で開催され、一般市民・高校生および本学学生、学園教職員など百三十五名の参加がありました。

最初に放射線技術科主任の今城吉成教授から「がん診療と放射線医学」のテーマのもとにPET(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)検査に関して基調講演が行われました。内容としては、PET検査の成り立ちや検査の手順、症例の提示などに加え、この二十四日から附属病院で開始されるPET/CT検査(PETとCTを組合せたPETより一段進んだ検査)の紹介が中心でした。



梶原康正教授による講演

また、被曝線量や検査にかかる医療費の問題などもわかりやすく説明されました。

次に、梶原康正教授から『肺に忍びこむ悪もの—アスベストとタバコと肺がん—』のテーマで講演がありました。梶原教授は「日本人の死亡原因として最も多いものは悪性新生物(がん)である。がんによる死亡数は最近も増加傾向にあり、特に肺がんによる死亡が最も多くなっている。肺がんの原因は特定することが

困難なことが多いようであるが、喫煙がその原因のひとつになっていることは確実である」と強調し、タバコによる肺がん、喉頭がんなどの増加と心筋梗塞の増加、アスベストによる肺がんと悪性胸膜中皮腫の発生の増加について解説しました。

最後に、心身の健康を保つためのリラクゼーション法の一つとして上海健康体操が紹介されました。第一看護科・上海留学生六名の模範演技とシンセサイザー音楽映像を体感しながら、全員が立ち上がり、いい汗を流しました。

なお、講演後の質疑応答では、参加者から「肺がんやPET検査」に関する多くの質問があり、関心の高さをうかがわれました。アンケートでも「タバコ、アスベストと肺がんとの関係がよくわかった」、「PETについての知識が得られた」などの感想が多く寄せられました。参加者は、講演者の熱心な応答にも満足されたようで、公開講座は盛況のうちに終了しました。

(放射線技術科教授 西村明久)



全員立ち上がり上海健康体操

第4回

オープン
キャンパス

10月14日—10月15日

開催



進学相談



本学紹介ビデオを観る参加者

十月十四日・十五日、学園祭にあわせて本年度四回目のオープンキャンパスを開催しました。主に本学体育館ロビーで進学相談を行い、校舎棟では学内見学ツアーなどを実施しました。遠くは東京、静岡からも参加があり、二日間でおよそ百三十名の高校生が訪れました。保護者の方も含めると三百名近い参加者があったと推測されます。

参加者の多くは、併設されていた「学科紹介」会場も見学し、本学学生や教員に熱心に質問する姿も見られました。来年度は「学科紹介」との連携を密にし、訪れた受験生にさらに満足してもらえるようなオープンキャンパスへと充実させたいと思います。

第二十二回 学園祭

十月十四、十五日の二日間、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、川崎リハビリテーション学院の四学による第三十二回学園祭が開かれました。晴天に恵まれ、学友会役員を中心にイベントを盛り上げ、舞台、模擬店、学科紹介など多くの人で賑わいました。

「絆」深めた学園祭

学園祭実行委員会副委員長 放射線技術科 年松原豊



今年の学園祭は天候にも恵まれ、幸先のよいスタートとなりました。僕はイベントを担当することになり、学園祭を迎えるまではかなりの不安がありました。しかし、当日はメンバーの助けもあり、また多くの方の積極的な参加もあり、無事成功することができました。今年のテーマは「絆—How's it going?」でしたが、これは今まで忘れかけていた言葉でした。学園祭を終え、友人、仲間たちとの絆の大きさ、また助け助けてもらっていることを、今回強く感じました。これからもその気持ちを大切にしていきたいです。後輩には、今年学んだ経験を来年精一杯活かせるようがんばってくれることを心から祈っています。

最後にこの場を借りて、ご指導、ご協力くださった方々に厚くお礼申し上げます。

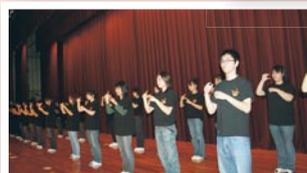


仮装行列 (医療保育科)

短大からは4チームが出場し、審査の結果、医療保育科チーム「杏仁娘」が4位に入賞しました。



仮装行列 (介護福祉科)



手話部の手話歌発表

附属病院8階大講堂では多彩な出し物が上演されました。



体育館前ステージ



短大模擬店全景



調理担当の裏方は大忙しです。



「フライドチキン、いかがですかぁ！」

イベント・模擬店

学科紹介

学科紹介にはたくさんの高校生が訪れました。



大学ではどんな授業があるのかにこやかに説明する医療保育科の学生。



説明にも熱が入ります。(放射線技術科)



赤ちゃん (人形) の抱き方を教えます。(第一看護科)

無料検査

病院では無料検査が実施されました。医大との合同企画です。



血圧測定 (第一看護科)



尿検査 (臨床検査科)

前夜祭



前夜祭の様子



前日準備

前日、テントの設営、機材の持込など準備に活躍する学生たち



学園祭を成功に導いた縁の下の力持ち「学友会スタッフ」。一つ一つイベントをまとめていく中で、お互いの絆が深まりました。

授業・実習風景③

臨床検査科 鐵原拓雄・近末久美子

形態検査学（病理組織細胞学実習）

臨床検査科の専門分野は、形態検査（病理組織細胞、血液、一般）、病因生体防御検査（微生物、免疫輸血）、生理機能検査（脳波、心電図、呼吸機能、超音波）、分析化学検査（臨床化学、凝固検査）、検査総合管理に大きく分かれます。

今回は、形態検査学、中でも病理組織細胞学の分野について紹介いたします。

病理検査学に関する実習

この実習は、一年生の後期に学内で行われます。主に病気で亡くなられた方から摘出された臓器の標本の作製方法を学びます。臓器



マイクロームで薄切しているところです。

はそのままの状態では薄く切ることもできませんし、顕微鏡で観察することも不可能



染色途中の顕微鏡観察について説明を受けています。

です。パラフィンという蠟燭の蝋（これを包埋といいます）、マイクローム（薄く切る機器）と呼ばれる機器で、およそ4

mmの厚さに切り、スライドガラスの上に伸展させて乾燥させ、それを染色して顕微鏡で観察します。

病理組織細胞学に関する実習

病理組織細胞学に関する実習は、二年生の前期に学内で実施されています。

喀痰や尿の細胞を観察するための標本の作製方法を学び、正常な細胞はもちろん、感染症、腫瘍などの場合、どのような像になるのかということや呼吸器、婦人科、消化器などの標本を観察し、学んでいきます。

臨床実習Ⅰ

川崎医科大学附属病院の病院病理部で行う実習です。作製した標本からどのような病変が考えられるか、次に確定診断するためにどんな特殊染色が必要かを考えます。

また手術室から提出された肉眼臓器の見方などを病理部の医師や技師から教えてもらいます。



技師さんに教えていただいています。直接見て聞いて、現場ならではの实習です。

臨床実習Ⅱ



技師さんにマンツーマンで指導を受けられるのも病院実習のよいところです。

病院で一步進んだ実習を行ないます。手術中に提出される検体の組織迅速診断の染色を手伝ったり、免疫組織化学染色や特殊染色について実習したりします。また細胞診の検体処理や日常業務で典型的な陽性例の鏡検などを行います。

臨地実習

病院病理部の指導者とともに研究を行います。年度末には、三年間の集大成ともいえるまとめ発表会があり、自分たちで研究内容をまとめ、発表します。研究



三年間の集大成でもあるまとめ発表会風景です。

だけでなくプレゼンテーションの方法なども学び、短い期間に研究のノウハウを学習できる有意義な実習です。

臨床検査科一・二年

学外研修

十月二十四日、臨床検査科二年生は加古川市にあるシスメックス加古川工場、および神戸市西区のシスメックスソリューションセンターを見学しました。

臨床検査の場で頻繁に使用されている血球計測機器、赤血球白血球細胞自動判別装置などが組み立てられていく様子を、分析機械の内部の配線まで見える位置で見せていただきました。それは他では得られない体験であり、病院実習を開始したばかりの二年生にとって、まさに驚きの連続だったと思います。床の導線に沿って、ビートルという小型自動車型の資材搬送ロボットが台車および資材を運搬しているのも、愛嬌がありました。

ソリューションセンターでは日本企業の活気ある状況をつぶさに見学させていただきました。ここには本学卒業生も社員として勤めています。学生にとって初めての企業見学は非常にいい刺激になり、学習面に一層意欲を掻きたてられたようです。十分に満足のいく見学になり、感謝をこめて神戸を後にしました。

なお、この日は一年生も学外研修で、吉備高原ニューサイエンス館とサッポロワイン岡山ワイナリーを訪問しています。



2年生学外研修（シスメックスにて）

教員の活動紹介⑥

社会福祉の研究

介護福祉科 助教授 土田耕司



社会福祉の研究とは、第一に、変化する社会と人間生活との関係を多様な視点から見つめ、分析、整理して、将来への展望を切り開きたいという課題意識に基づくものであります。そこでは社会経済構造やイデオロギ一の変化の諸相を捉えて、人間生活にもたらされる影響を検討しなければなりません。

第二に、社会福祉は社会変化の影響を受けるばかりではなく、社会に向けての働き掛け、提案をし、新たな人間生活の価値を創造する主体的な役割を営んでいます。つまり、社会へ積極的なメッセージを発信することでもあります。



昨年11月開催された全国障害者スポーツ大会に学生サポーターとともに参加

第三は、過去から未来に至る時間軸の中で、人間生活と社会の在り様を切り開き、新たな人間生活の価値を創造してきたものとして、その事実を記録に残すことでもあります。

社会福祉は、常に人間生活とその社会との関係の中で人間の社会生活ニーズから派生する問題の解決の糸口を追求する研究であり、その領域は社会の著しい変革の影響を受けて拡大しています。このことは、さまざまな学問の領域の寄せ集めに位置している研究といえます。それは、社会福祉の目指す方向が、社会で生活する人間とその生活の安寧を研究対象として捉えているからです。

私の研究は社会福祉の一分野として、心身に障害を持ちながら生活している人々を対象とした障害者福祉といわれる領域です。この障害者福祉の研究の方法は、当事者に関する研究と、当事者を取り巻く環境に対する研究に大きく分けることができます。そして、私は障害者を取り巻く環境(物理的・人的)面に対しての研究活動をしています。具体的な内容としては、車椅子障害者の外出時の介助に関する問題とか、障害者のスポーツ活動を行う時の専門ボランティアの問題等々、障害者の日々の生活の中で起こり得る環境面への問題のアプローチについて微力ながら研究活動をさせて頂いています。

先輩から後輩へ⑥

新生児センター勤務 二年目を迎えて

川崎医科大学附属病院新生児センター 看護師 竹内陽子



私は、現在川崎医科大学附属病院の新生児センターに勤めて二年目になります。

就職してすぐのころ、新生児センターに配属が決まり、特殊な病棟だけに不安でいっぱいでした。働き始めても、やはり環境に慣れず、業務を覚えることや、時間内に仕事をこなすことに必死で、一人の患者さまにもっと時間をかけてあげたくても、そんなゆとりもありませんでした。自分が描く看護像とははるかにかけ離れていて、これが自分のやりたかった看護なのかな、と悩むこともありました。

新生児センターでは患者さまはすべて赤ちゃんです。何か訴えているサインを見落とさないよう、しっかりと観察しキャッチしなければ気が付くことができません。また患者さまは赤ちゃんだけでなく、母親はもちろんそのご家族も患者さまです。そういったことすべてに目を向け、適切に看護をしていかなければなりません。一年目の私にとってはとても高いハードルでした。

しかし、先輩方は早々と自分の仕事をこなし、私のフォローまでしてくださっていました。先輩方が、ゆとりをもつて赤ちゃんやご家族に関わっている様子や、緊急入院があっても素早く的確に対応している姿を目の前で見ている、あんなふうになりたいと思ひ、そ

れが頑張るエネルギーになりました。また患児の受け持ち看護師とお母さんとの面会ノ一トを見せて頂き、とても感動し、こんなふうに看護がしたいと思うようになりました。

二年目になった今も、まだまだ時間に追われる日々で分らないこともありすが、たくさんの患者さまと出会い、看護師として、一人の人間として、いろんなことを学ばせていただき、少しずつですが成長させていただいています。今こうして働くことができているのも、同期の仲間存在と、熱心に指導してくださる先輩方のおかげだと思います。どんなに辛いことがあっても、目標とする先輩、あこがれの先輩がいたから、頑張ろうと思え、乗り越えてくることができたのだと思います。

これから医療の現場で活躍される皆さんにとって、期待と不安で胸がいっぱいだと思いますが、早く目標とする先輩や、あこがれの先輩を見つけ、自分の理想とする看護を身につけていってくださいます。



新生児センターにて

アスベスト除去工事の 全てが完了する

事務部長 小橋 誠

平成十七年七月施行の石綿障害予防規則（厚生労働省令第二十一号）等の法令に従い、本学の実習室、機械室等に使用されていたアスベストの除去工事が竹中工務店によって行われた。

平成十八年七月十六日から同月末にかけて粉塵飛散防止の養生・解体等の諸準備を行い、八月上旬から、いよいよ本格的な養生・解体・除去作業を開始し、工程は二階から四階までの実習室・準備室を中心に除去工事が進められた。今年特別猛暑で、体感温度五十度以上という過酷な作業条件の中、前期定期試験の終了を待って、連日わたり工事は夜間も施工された。十月二十五日、最後に図書館裏の機械室の除去を行い、本学におけるアスベスト除去工事は全て完了した。除去した部屋は、その都度、環境計量証明機関の指定を受けた（財）淳風会による石綿粉塵濃度測定が実施され、全室におい

て残留粉塵値「ゼロ」の測定結果を得た。

以上の結果を踏まえて、平成十八年十一月九日、運営委員会にアスベスト除去工事終了の最終報告を行い、同日付けをもって本学にはアスベストは存在しない旨の安全宣言を行った。



猛暑の中、防護服を着用しての作業

上海訪問

第一看護科講師
岡田 初恵

本学と上海職工医学院との友好訪問行事である第七回上海訪問が八月二十一日から五日間の日程で行われました。本学から第一看護科学生五名と教員二名の計七名が参加し、両校の友好や異文化交流を図りました。

現地では、趙崇和院長をはじめ、多くの方々の歓迎を受けました。また、かつて本学で日本の医療を学ばれた方々とも会い、学生達は普段一緒に学ぶ留学生の帰国後の活躍を知り、よい刺激を受けたようです。

交流会では、日本の食文化として紹介したみたらし団子が好評でした。この日のために学生達は事前に材料を準備し、団子の由来などを調べていました。現地での団子作りでは、次年度

から本学第一看護科で学ぶ予定の上海の学生も手伝ってくれました。訪問学生は、今年度初めて、三年生に加えて二年生も参加しており、一緒に団子を作った留学生と日本で長く関わると楽しみのようです。今後ますます活発な交流となりそうです。

中国の水郷
朱家角にて



宿舎で一息



中国から二一ハオ！！

来年4月、第一看護科に入学する予定の徐さんと林さんです。
現在は聴講生として日本語の勉強に励んでいます。

◆徐 敏君

XU MINJUN



【出身】中華人民共和国 上海市
【経歴】上海市衛生学校卒業
【趣味】音楽、旅行、料理
【本学の第一印象】川崎医療短期大学の学習環境はとて素晴らしいです。また、教師陣は人材が豊富であり、先生方もやさしく近づきやすく、私はここで多くの有益な知識と教育方法が学べることを信じています。
【メッセージ】来日以來、先生方からいろいろなお世話をしていただき、私は日本の生活にだんだん慣れてきました。聴講生という半年の短い期間の中で、主に自分の日本語が上達するように頑張りたいと思います。また、これからの三年間で、専門知識を身につけ、自分らしい成長を期待しています。

◆林 珏

LIN JUE



【出身】中華人民共和国 上海市
【経歴】上海市衛生学校卒業
【趣味】旅行、読書
【本学の第一印象】川崎医療短期大学は、立派な学校だと感じました。勉強する環境が良いし、先生方が親切だし、家のような感じがあります。私はここで、先進的な知識と技術が学べることを信じています。
【メッセージ】初めて親と離ればなれになり、異国に留学することになったので、少し不安がありました。先生方や舍監さんや寮母さんは、やさしい笑顔で私たちを迎えてくれました。みなさんのおかげで、不便もなく日本の生活にだんだん慣れてきました。これから専門知識だけでなく、日本の言葉や文化などについても勉強していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

国家試験要領

区分	試験期日	試験地	合格者の発表
第96回 看護師国家試験	平成19年 2月25日(日)	香川県	3月27日(火) 午後2時
第53回 臨床検査技師国家試験	平成19年 3月2日(金)	香川県	4月6日(金) 午後2時
第59回 診療放射線技師国家試験	平成19年 3月1日(木)	香川県	4月6日(金) 午後2時
第20回 臨床工学技士国家試験	平成19年 3月4日(日)	大阪府	3月26日(月) 午後2時

放射線技術科三年生学外研修

平成十八年十一月十八日(土)・十九日(日)に日本放射線技術師会・日本放射線技術学会合同で中国放射線医療技術フォーラムが香川県県民ホールにて開催されました。今回、学外研修の一環として、十八日(土)の朝七時半から貸切バスに乗って、三年生六十八名と引率教員三名が参加しました。学外研修としては土曜日の一日のみでしたが、希望者や翌日の演題発表者は、両日参加しました。演題総数は百二十七演題で、本学学生による口頭発表が二演題ありました。学生らは、四月からの卒業研究の成果を、やや緊張しながらも順調に発表し、質疑応答も立派にやり遂げました。発表の仕方や質疑応答の答え方、研究の厳しさなどを実感できたようです。翌週には卒業研究発表会も開かれ、学外研修での成果が反映されました。



ソフトボール部
準優勝

主将 臨床検査科3年
國米 佑介



私たちソフトボール部は、十月九日に実施された第四十二回岡山県臨床検査技師会ソフトボール大会で準優勝しました。

学生チームは病院や企業チームに混じり、二チーム出場しました。一チーム内に女性を四名出場させる規定があり、それに準じてメンバーを構成しました。全参加チームは十五チームで、予選リーグは四つの会場で行われ、上位二チームが決勝トーナメントに進出しました。

受賞

臨床工学科 望月精一教授は、早稲田大学理工学部応用化学科の酒井清孝教授、小堀深講師の研究グループとの共同研究による論文において、平成18年度日本人工臓器学会論文賞を受賞しました。

[掲載論文誌名]
Journal of Artificial Organs

[論文名]
Hollow-fiber blood-dialysis membranes: superoxide generation, permeation, and dismutation measured by chemiluminescence. 2005;8(4):257-62

[著者名]
Yamamoto K, Kobayashi K, Endo K, Miyasaka T, Mochizuki S, Kohori F, Sakai K

私たちソフトボールAチームは予選を順当に勝ち上がり決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントの初戦は去年の準優勝チーム倉敷芸術科学大学でしたが、大差で勝利し、準決勝は岡山大学学生チームと対戦し、完封勝利を収めました。決勝は予選リーグで接戦の末勝った倉敷中央病院チームとの対戦でした。わがチームは先制点を入れ終盤を向かえましたが、惜しくも逆転され、敗戦しました。

なお、Bチームは接戦でしたが、予選敗退しました。

ソフトボール部はほとんどが臨床検査科の学生です。練習は、毎週土曜日、午後二時から約三時間、電車のみえる短大グラウンドで和気藹々として行っています。

来年は一つ上を目指して頑張るよう後輩に夢を託しています。他学科の方たちにもぜひ加わっていただきたいと思えます。

事務部から

教務課の仕事

— 学生募集要項等の発送

事務部教務課 足立 千夏



一年は早いもので、もう十二月です。現在、本学では、入試シーズンの真っ只中にあります。四月に入学された二年の皆さん方も昨年のご自分の受験の頃を思い出しているのではないのでしょうか。

さて、在学生の皆さんが本学を受験された時に手にされた学生募集要項や大学案内は、教務課が発送業務を行っています。毎日、ホームページの請求メールを確認し、また、電話・FAXはがきなどの請求をもとに発送しています。

この業務は、毎年六月に新しい大学案内・学生募集要項が出来上がると、西日本の全高等学校をはじめ、東日本の一部の高等学校や六月までに請求のあった受験者あてに約六千部を二日間で一斉に発送することから始まります。このときは、事務部長をはじめ事務室職員総出で、宛名のシールはりや袋詰め作業を行います。

各入試の出願期間が近づくと、受験者の方に一日も早く募集要項が届くよう、日時指定の宅配便や、場合によっては航空便を使って発送することもあります。

学生募集要項や大学案内は、受験者個人にお送りすることに加え、各地で行われる進学相談会や高等学校内の進学ガイダンス、また、見学者やオープンキャンパスの資料として、本学を理解していただくために広く活用しています。

また、募集要項の請求メールには、入試のことをはじめ、入学後の学校生活等についての質問もあります。受験者の方の不安が少しでも解消できるよう、質問の内容によっては、ときに各学科の先生にお聞きし、必ず回答をしています。方法は、募集要項に回答文を同封したり、電話やメールでも回答しています。

短大離れが進んでいると言われていた昨今ですが、受験を考えている方々をはじめ多くの皆様は本学を知っていただきたいと思っています。在学生の皆さんも地元へ帰省したときなど、「川崎医療短期大学は、こんなところだよ」と是非本学について話してみてください。大学案内など資料が必要なときは気軽に教務課に来てください。

平成19年度特別入試・推薦入試結果

特別入試は、昨年度の志願者数 241 人(志願倍率 4.4 倍)に比し、志願者数は 190 人(志願倍率 1.8 倍)でした。また、推薦入試は、昨年度の志願者数 210 人(志願倍率 2.0 倍)に比し、志願者数 146 人(志願倍率 1.5 倍)という結果になりました。

特別入試・推薦入試ともに志願者数が減少するなかで、

臨床検査科(志願倍率:特別入試 5.1 倍、推薦入試 5.0 倍)と放射線技術科(志願倍率:特別入試 4.6 倍、推薦入試 3.7 倍)の健闘は、特筆に値するものです。

なお、一般入試の日程等は下表のとおりです。詳細は本学教務課までお尋ねください(電話 086-464-1033)。また、入試情報は本学ホームページにも掲載されています。

特別入試							推薦入試						
試験日:10月21日 合格発表:10月27日							試験日:11月11日 合格発表:11月17日						
	第一看護科	臨床検査科	放射線技術科	介護福祉科	医療保育科	計		第一看護科	臨床検査科	放射線技術科	介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	25	7	7	47	17	103	募集人員	35	10	10	15	30	100
志願者数	44	36	32	32	46	190	志願者数	21	50	37	3	35	146
志願倍率	1.8	5.1	4.6	0.7	2.7	1.8	志願倍率	0.6	5.0	3.7	0.2	1.2	1.5
合格者数	27	9	8	32	17	93	合格者数	16	15	12	2	30	75

主要行事(1月~3月)

1月	4日	仕事始め
	5日	一般入試前期願書受付開始(~26日)
	15日	第一看護科1年(前半)基礎看護学実習I(~20日)
	19日	第18回医療福祉教養講座
	22日	第一看護科1年(後半)基礎看護学実習I(~27日)
2月	2日	一般入試前期
	9日	一般入試前期合格発表
	19日	臨床検査科2年臨床実習II開始
	23日	一般入試後期願書受付開始(~3/8日)
3月	14日	一般入試後期
	15日	卒業証書・学位記授与式
	17日	一般入試後期合格発表
	20日	放射線技術科2年臨床実習終了

平成19年度一般(前期・後期)入試日程

試験区分	願書受付期間	試験日	合格発表	入学手続期間	試験内容
一般前期	平成19年 1月5日(金)~ 1月26日(金) 【消印有効】	2月2日(金)	2月9日(金) 午前9時	2月14日(水) } 2月23日(金) 【消印有効】	学科試験 2科目・面接
一般後期	平成19年 2月23日(金) ~3月8日(木) 【消印有効】	3月14日(水)	3月17日(土) 午前9時	3月19日(月) } 3月23日(金) 【消印有効】	【A方式】 大学入試 センター試験 から2科目 ・面接 【B方式】 小論文・ 面接

川崎医療短期大学広報誌

「若きいのち」(55号) 平成18年12月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

名木田恵理子(一般教養・委員長)

藤原忠昭(庶務課・副委員長)

田邊和代(第一看護科)

近未久美子(臨床検査科)

天野貴司(放射線技術科)

片岡則之(臨床工学科)

河邊聡子(介護福祉科)

青井則子(医療保育科)

重政有里(庶務課・書記)

印刷: 友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194

倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話:086-464-1032(庶務課)

Eメール: shomu@j.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ

http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/home/

この特集記事は、各学科就職担当、担任、事務室等の先生方にご協力をいただきました。また、表紙の写真は、学園祭のコマを庶務課の山口義雄氏が撮影してくださったものです。さらに、大学事務局広報資料室の山元敦美氏からも写真を提供していただきました。全字あげでの協力が心から感謝します。

「おわりに、引き続き広報誌「若きいのち」に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。(藤原忠昭)」

今回は、保護者の皆様から要望の強かった「就職問題」を特集しました。本学においては、今年度も全国各地の医療・福祉施設等から前年度を大きく上回る求人を受けており、学生諸君の就職活動も極めて順調に推移しています。学生諸君には、就職を短期的に捉えたり、短絡的に考えたりするのではなく、自分のキャリア形成について真剣に考えて決定することにより、自己実現に結び付けて欲しいと願っています。一層の奮起を期待しています。

川崎医療短期大学「若きいのち」も今の体裁になって今年ではや六号目となりました。毎号ごとに手探りで発行してまいりましたが、「節ありて、竹強し」の諺のごとく、回を重ねる度に内容的にも充実度を増し、着実にたくましく成長しているのではと編集委員一同自負しています。今後も、さらに、読みやすく、若々しい、そして、親しみやすい誌面づくりに努めていきたいと思っています。

編集後記